詠む

毎日歌壇

水原 紫苑 選

重力に負けるものみな美しく　葡萄　光のほうへと朽ちて　東京　碓井やすこ

△評▽重力に負けないものは無いはずだ。だがブドウは負け方さえも美しく、滅びる日も光に向かう。

真夜中に書斎あければ人がいるドッペルゲンガーお前も休め　新発田市　佐藤　榮征

△評▽はい、と言ってドッペルゲンガーも帰って行きそうだ。

うつして。盲いたあなたを抱きしめるときに剣になる脊柱を　福岡市　高橋　寧

退位するなら毒杯を呷るぞと皇帝ダリア天を戴く　名古屋市　浅井　克宏

死に方は選べないけど霜月に千日紅の咲く道を撮る　千葉市　佐藤　綾子

薄氷を踏み抜くように声変わりするだろうこのからだが怖い　名古屋市　岩塚　光希

重い雨と軽い雨とがあるようだ傷に沁みたよどしゃ降り十九　川越市　新井　昌広

それぞれの白さでくだる冬の火に手を差し伸べて「雪」と言うひと　枚方市　久保　哲也

時間という時間を使い尽くしたらこころはクリスタルの骸骨に　横浜市　永永　キヌ

空港は何者と咎められないから天国のように歩けた　京都市　よだ　か

伊藤 一彦 選

「とりあえずビール」みたいに俺を呼ぶ課長の前で泡になりたい　盛岡市　木村　英樹

△評▽上司との関係を歌った。上の句の憤まんやるかたない気持ちの例えが巧みで結句も面白い。泡を吹かせようというのか。

人生の目標が遠くなり足の爪も切るのに遠くなり　前橋市　西村　晃

△評▽年老いて人生の目標が遠くなると歌い、足の爪を切る動作の表現がうまい。

月光があまい言葉をかけしはず頬にふふませ吸ふあけびの実　横浜市　谷口　菜月

悪いことしないけどできそうな気がする監視員の死角に立って　東京　遠野　鈴

一番になりたくて人を羨んでこの喉に竹、竹、竹生える　相模原市　榎本　ハナ

自転車でガタガタ坂を下るとき星の鼓動に触れているのだ　熊本市　夏風かをる

淋しさのひとつのかたち吾亦紅病床長き妻に似ている　狭山市　若松　吉弘

遠くある明治も明治生まれなる祖父思う時だけは近づく　福津市　原田　冬

山陰の天気は変わりやすいけん、傘とコートを持ってくるだわ。　雲南市　熱田　一俊

美しい曲線を引いてスタンドに飛び込むボールの痛みを想う　名古屋市　田中　靖人

米川千嘉子 選

母の背の温もり今日も独り占めトイレの介助じつは楽しみ　浜松市　入江　うと

△評▽後ろから支えるように介助しながら、感じる母の背中の温もり。大変さだけではない、触れあいの喜びも真実なのだ。

自画像の眼まで泳いでいるあたり結構巧く描けたと思う　千葉市　芍　薬

△評▽目の中にあるやましさや不安や緊張やうつろ。思いがけず暴いてしまった。

あたたかな言葉綴った古本を背中にしょって冬に備える　札幌市　橘　晃弘

病室の父と野球を観戦し演歌を歌い家売る話　東京　吉村　享子

ウクライナ、ガザの子供にこびりつく涙のあとをわたしは拭けず　野田市　片倉　伸明

人は皆逝くと教えてくれるのは再放送の弾ける笑顔　大分市　赤峰　宏史

きつかったコンバースひとつ古着屋へ売れば高値がつき本を買う　千葉市　佐藤　綾子

光合成していた森を人間はソーラーパネルに変えてしまった　倉敷市　中路　修平

車海老を釣ってきたよと息子らは秋穂の秋を焼き、揚げ、造る　山口市　平野　充好

満月を見ようとやっこらベランダへ無口な夫と手をつなぎたり　東京　河野多香子

加藤 治郎 選

really like からその先にあるloveをまだAIに教えられない　新宮市　小野小乃々

△評▽「本当に好きです」の先には「愛しています」がある。この感情はAIにわかるだろうか。愛とAIの相性を想像する。

平日平日ゴミの日平日平日ゴミの日平日　わが一週間　東京　福島　隆史

△評▽人生の日々には2種類ある。ゴミの日とそれ以外だ。無職の人の一例だろう。

「ママずっと一緒にいて」と吾子は言う魔女の手先のようなわたしに　仙台市　まちのあき

さびしいひとよ、冬のにおいのすることを誰とも語りあえずに消えて　所沢市　神田　望

異国から届いた手紙を読むように楽譜屋の森で誰もがしずか　武蔵野市　北谷　雪

飛行機雲の途切れた部分を数えると「さ・よ・う・な・ら」となっていた　東京　カ　ヒ

憎しみに身を任せたい夜があり変な踊りで誤魔化してみる　神戸市　入間しゅか

この国の動脈のように流れ出す駅を漂うテールランプよ　横浜市　友常　甘酢

ひと匙の灰でいいですふるさとの浜辺にやさしく撒いて下さい　米国　森本　弘

四歳の記憶に残れ共に乗るブランコ自転車回転木馬　東京　青木　公正

投稿規定　はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100－8051（住所不要）毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生（希望選者名）係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム（https://mainichi.jp/kadan-haidan/）でも受け付けています。

こちらから投稿できます

おことわり　11月16日の歌壇「手品終えた我を園児が取り囲む魔法使いの役降りられず」は二重投稿だったため、入選を取り消します。